

---

---

## § 賢者の塔

ここでは賢者の塔と各種魔法使い達についての設定を説明する。

---

### ○学校としての賢者の塔

- ・学校といっても近代的な小中高校のようなものではない。
  - ・賢者の塔に入るのは、大きく魔法使いの子供が別の魔法使いに師事させるためと、魔法使いとしての素質があるものがスカウトされるの2パターンがある。
  - ・元々、弟子を取る私塾がベースであり、学校のシステムとしては大学が一番近い。大学の様なシステムといっても単位制ではなく、各講師が行う授業が列挙され、その中から生徒が自分で必要なものを履修していくという形である。
  - ・入学についての年齢制限が無い上に、履修する授業も個人で選択するので、授業によっては小学生のような子供と中年の大人がいっしょに授業を受けるような光景も見られる。
- 

### ○賢者の塔の位置

- ・強力な魔法で隠蔽されているが、その大まかな位置までは隠しきれていない。各塔のおおよその場所は、以下にあることが知られている。

- 1) メルキオール：イギリスのどこか
- 2) カスパール：フランスのどこか
- 3) バルサザール：中央ヨーロッパのどこか

- ・どの塔もライバル関係ではあるが、塔同士は、転移魔法陣で一瞬にして行き来できるように作られている。ただし、緊急時に備えて、転移魔法陣は即座に機能を失うように準備されている。
  - ・塔には各魔法使いが研究室を持っている。研究室を与えられるのは導師として後進の指導にあたることができるものだけである。
- 

### ○賢人会議

- ・賢者の塔を運営する組織として「賢人会議」というものが作られている。
- ・当初、各派閥の代表者を含めて10名程度で進められていたが、光翼教や血晶魔術で発生した問題から瓦解。現在は塔の名前を継承した3名と、その補佐3名の6名で運営されている。
- ・代表者3名のことは、「三賢人」と呼ばれている。

### ・NPC

- ・名前／性別：オリバー・メルキオール／♂：異能＝魔導詠唱術
- ・塔の名前を継承する三賢人の一人。
- ・三賢人の中では最年長の50代。権力志向が強く、三賢人の座を長らく他の魔法使いと争っていた。
- ・最年長とその気の強さで、三賢人の中では一番発言力が強く、彼の一言で決まってしまうことも多い。
- ・魔法使いとしては優秀な方だが、実力は3番手ぐらいである。その性格は経営者向きであり、研究に専念したいタイプの魔法使い達からは支持されている。

- ・ NPC
  - ・ 名前／性別：アンセルム・カスパール／♂：異能＝操影術
  - ・ 塔の名前を継承する三賢人の一人。
  - ・ 三賢人の中では一番の若手で20代。
  - ・ 本来ならば彼のような若輩が三賢人に就任することは無かったのだが、これは光翼教によるごたごたのせいである。
  - ・ 魔法使いとしては操影術の使い手としてトップクラスの実力を持っているため、塔の代表として選出されても、周囲から文句は出なかった。ただし、他の塔の魔法使いからは、若い＝未熟者という印象を持たれてしまっている。
  
- ・ NPC
  - ・ 名前／性別：エルマ・バルサザール／♀：異能＝幻系操術
  - ・ 塔の名前を継承する三賢人の一人。
  - ・ ”蜘蛛の魔女”、”アラクネ”の異名で呼ばれる幻系操術の使い手。
  - ・ 年齢は30代。そのきつい印象と異名のおかげで男性が寄り付かないと、よく嘆いている。印象がきついのは、三賢人としてのプライドから来るものなのだが、本人は自覚していない。
  - ・ 料理が趣味で、意外と家庭的。女子力も高いはずなのだが、プライドが邪魔をして残念な言動が多いのが、モテない原因である。

## ○派閥

- ・ 各異能毎に体勢や情勢、NPCを紹介する。
- 1) 魔導詠唱術（スペルキャスター）
    - ・ 魔法使いの源流にして原点と言われる術式。
    - ・ ある意味で「万能の魔法使い」なのだが、長い詠唱を圧縮する過程で、術式の難易度が向上したため、新たな術式の開発が困難になっている。
    - ・ 他の術式とは異なり習得が早いことが特徴。そのため早く魔法使いになろうとする者はこの術式を選ぶことが多い。
    - ・ この派閥では現在、無詠唱による魔法行使についての議論が活発に行われている。本来は、魔法のためのイメージ構築、発動する方向性の制御、出力の安定、消耗の低減といった役割のために、詠唱が必要とされてきた。しかし、熟練者になればなるほど無詠唱でも問題ない、むしろ無詠唱であるべきと考える者が多くなってきている。
    - ・ 無詠唱を推奨する者達の理屈は「詠唱によって、魔法と発動と種類が他人にわかってしまう」ということを懸念しているというものである。魔法を積極的に使用する実戦派と呼ばれるものに無詠唱を推奨する者が多い。しかし、詠唱を必要だとする者達からすると、無詠唱によって消耗が激しくなるのはナンセンスだと言う。このような流れで、詠唱／無詠唱の議論は決着がつかない。
  
  - ・ NPC
    - ・ 名前／性別：アルベルト・シュマイツァー／♂：異能＝魔導詠唱術
    - ・ 現在の魔導詠唱術の派閥の中で最高実力者とされている人物。
    - ・ 導師としても優秀で、10名を超える弟子を持つ。
    - ・ 3つの塔の中でも数名しかいない”賢者の杖”の所持者として知られる。
    - ・ メルキオール代表として三賢人入りを打診されていたが、根っからの研究者気質だったため、最初から断っていた。

## 2) 光翼翔術 (エンジェルハイロウ)

- ・魔導詠唱術の元素操作から派生した術式。
- ・光翼教の影響で賢者の塔の中では勢力が最小になっているが、光属性の制御にかけては随一である。
- ・この術式で最も有名な「光翼展開」は、一見、光る翼を出すだけだが、実際には高度な制御技術の入口であり、これができるとできないでは、今後の術者としての成長に著しく差が出る。

### ・NPC

- ・名前／性別：アルスラ・ルーサット／♂：異能＝光翼翔術
- ・光翼翔術の最高実力者。現在の光翼翔術の使い手の中で、唯一、六対12枚の光翼を展開する「天翼展開 (ルシフェリック・エクスパンド)」が実行できることがそれを証明している。
- ・光翼教を作った「マイケル・ダニー・ダラス」と意見の相違から争い、彼を追い出した人物でもある。
- ・光翼教の件が無ければ、彼が三賢人に抜擢されているはずだった。
- ・上昇志向も権力志向も強く、三賢人入りすることを、全くあきらめてはいない。

### ※天翼展開 (ルシフェリック・エクスパンド)

- ・ルール上は、光翼展開、四翼展開、六翼展開を一気に発動させること。
- ・[オート]で光翼展開→[マイナー]で六翼展開→[メジャー]で四翼展開を発動。3つの発動完了時点で12枚の光翼を出現させる。

## 3) 操影術 (シャドウダンサー)

- ・魔導詠唱術の元素操作から派生した術式。
- ・元々は光の反転属性として研究が始まったが、影を亜空間として扱う術式の構築が成功したことにより、賢者の塔での確固たる派閥の1つとなった。

### ・NPC

- ・名前／性別：ゼンセルム・ストラウス／♂：異能＝操影術
- ・三賢人「アンセルム・カスパール」の双子の弟。兄弟の仲は良好である。
- ・現在のカスパールの賢人の補佐を務めている。
- ・髪型と伊達眼鏡で雰囲気を変えているが、実は兄とは一卵性双生児で、髪型や服装をそろえると、見分けがつかないぐらいそっくりである。これを利用して兄と入れ替わることで、兄の活動や事件の解決に尽力している。
- ・操影術の使い手としては兄に一步劣るが、発想の転換や応用力でその差をカバーしている。

## 4) 幻糸操術 (ファントムスレッド)

- ・錬金術を源流に持つ術式。
- ・錬金術の物体生成から魔力による糸の生成に特化した結果、成立した。
- ・糸を操るという性質上、その操作にはセンスが問われるが、その繊細な魔力操作は、一部の高位魔法使いから「芸術品」とであると賞賛されている。

### ・NPC

- ・名前／性別：シルキー・スパイダー／♀：異能＝幻糸操術
- ・”絹糸の蜘蛛” (シルキー・スパイダー) の異名で呼ばれる幻糸操術の使い手。
- ・過去の事故により負った怪我を隠すため、幻糸で作った白い衣類と仮面で全身を覆っており、その素顔を知るものはほとんどいない。これにより本名も隠しているため、他の魔法使いからはもっぱら”シルキーさん”と呼ばれている。
- ・纏う仮面と衣類のどこからでも幻糸を放出でき、捕縛や意表を突いた移動などを得意とする。
- ・仮面のせいでややくぐもった声で話すが、声色は可憐で、言動は丁寧のため、バルサザールの塔の中では意外と人気があり、彼女のファンクラブのようなものが存在する。

#### 5) 血晶魔術（ブラッドクリスタル）

- ・錬金術を源流に持つ術式。
- ・元々は血液を触媒にホムンクルスを作成する実験だったが、途中で血液の結晶化に成功し、それを魔法の触媒とすることで血液と生命力を操る術式へと方向転換した。
- ・医術系魔法の最高術式であると言われたが、この術式の最高権威である魔法使いが、吸血鬼に転化する術式を編み出し、あまつさえそれを自分に使用して真祖となってしまった。この事件により、賢者の塔での権威を失い、研究は大幅に制限を加えられることになってしまった。

#### ・NPC

- ・名前／性別：アラン・フェイドリー・フォスター／♂：異能＝血晶魔術＋死人
- ・血液を触媒とした身体強化の研究中に、細胞レベルで人間を変質させる手段にたどり着いた天才。
- ・この世界で吸血鬼化することを「転化」と呼んだのは、彼が最初である。
- ・自らを実験台にして転化術式を実行。完璧に成功した上で、自らの研究室を爆破して姿を消した。
- ・賢者の塔では、吸血鬼＝血に飢えた理性の無い化け物という認識であり、転化術式が成功したとしても化け物が生まれるだけだと考えられていた。しかし、彼は転化後も理性を保ったまま行動できていた。研究室を爆破したのは、研究資料が他人に利用されるのを防ぐためと考えられている。その爆破の際には人的被害は一切出していない。
- ・彼がどこへ行ったのか不明だが、彼を頂点とした吸血鬼の一族が生まれているのではないかと推測されている。

#### 6) 言霊使い（ソウルトランスレーター）

- ・魔導詠唱術における”詠唱”の部分に特化することで派生した術式。
- ・呪文を圧縮する過程で、呪文そのものを魔力として放射し、「言葉を世界に強制認識させる」ことで魔法現象を発生させる術式である。
- ・効果の発動は、魔法力系統の異能の中では最速である。
- ・権力や世俗とは隔絶している魔法使い達だが、言霊使い達の3分の2が賢者の塔から離反。より実戦で効果を発揮することを重要視し、国家権力に対して売り込みをかける。SWAT部隊などに組み込まれた彼らは、現場で強烈的な制圧力を見せた。

#### ・NPC

- ・名前／性別：風音 詩織（かざね しおり）／♀：異能＝言霊使い
- ・表の職業は声優。代表作は深夜アニメ「エレクトリック・ガール」の主人公。
- ・「言葉に力がある」、「声が沁みこむ」等、声質と演技が賞賛されている。
- ・裏の職業として、警視庁特務鎮圧隊「フォースエコー」に「風鳴 詩音（かぜなり しおん）」の名前で所属。階級は巡查。コールネームは「エコースリー」。
- ・父親が賢者の塔でも有数の実力を持つ言霊使いで、幼少の頃から言霊使いとして鍛えられてきた。その父親は日本の警視庁に特別顧問として雇われている。
- ・言霊使いとしての本業は鎮圧隊の方だが、当人は声優業の方が面白く感じている。

## 7) 武装化寄生体 (パラサイトアームズ)

- ・極地環境で生存する昆虫やバクテリア、細菌などを研究していた錬金術師の合成した寄生体が、この術式の原点である。
- ・当初、遺伝子レベルでカスタマイズされた寄生体を動物に植付け、自在に操る術式として研究が進んでいた。
- ・その途中、研究員に寄生体が憑りついてしまう事件が発生。怪物化してしまったその研究員は、頭部を吹き飛ばしても再生し、襲い掛かってきた。最終的にその研究員を完全に消滅させることで事件は沈静化する。
- ・そこから密かに寄生体を人間に植付け、魔法で外部から隷属する仕組みを追及することに方向転換した。この人体実験は、犯罪者や浮浪者といった、社会的に存在を認められにくい者達を使用した。
- ・そして悲劇は繰り返される。寄生体実験の被験者の一人が制御を受け付けずに暴走。しかも、他の寄生体被験者を配下のように操った。心臓を打ち抜いても、頭部を消滅させても再生してくる集団に対し、研究員はなすすべもなく全滅。女王種(クイーン)となったその個体は、他を引き連れて姿を消した。現在、その研究室はまるごと消失している。
- ・この寄生体の実験と事故は隠蔽されており、世間的には知られていない。賢者の塔でもそれを隠蔽した数名だけが知っているが、当然、彼ら／彼女らはその情報を漏らしたりはしない。
- ・世間一般では、この寄生体による変身能力は、魔法の一種だと認識されている。

### ・NPC

- ・名前／性別：本名不明／♀：異能＝武装化寄生体
- ・寄生体に非常に高い適合率を持ち、憑りつかれた段階で肉体どころか精神も変異し、寄生体の女王種である”パラサイト・クイーン”となった。
- ・実は元研究員であり、高い知性を持つ。しかし、その思考は寄生体に汚染されており、自らの生存のために行動することを最優先に考えるようになっている。
- ・女王種として子となる寄生体を生み出す能力を持つ。本来は魔法によって外部から意志を制御されるはずの寄生体だが、彼女の生み出した個体にはそれが通用しない者が多い。女王種として子たる寄生体に命令する力を持つが、中には女王種の命令も受けない個体も生まれている。
- ・現在、子の宿主にできる人間を探して、あちこちをさまよっている。

## 8) 相転移変換術師 (フェイズシフター)

- ・魔導詠唱術の元素操作から派生した術式。
- ・光翼翔術や操影術のように特定元素に特化したのではなく、元素操作そのものに特化した術式といえる。
- ・様々な形態に変身することで環境適応能力と魔法使いとしての脆弱性を克服した。
- ・賢者の塔の中では最も新参の術式だが、形態変身の効果だけで、元素操作としては魔導詠唱術を超えているとされている。

### ・NPC

- ・名前／性別：ラトン・マーレ／♂：異能＝相転移変換術師
- ・見た目はどこにでもいるような痩身の男。あまりにも普通でぱっとしない外見のため、初対面の人には実力ある魔法使いであると思われぬことが多い。
- ・個人の相性の問題でなかなか達成されなかった、四元素への相転移変換を最初に成功させたといわれる人物。その功績から「四元力素使い (Fourth Force)」の異名で呼ばれることとなった。
- ・本人は感情の起伏のほとんど無い落ち着いた性格だが、相転移変換して元素体になると、元素に引きずられるのか性格が別人と思える程に激変する。同門の魔法使い達からは、この性格変化が四元素への相転移変換を可能にする適性でないかと言われている。